

保護者との共通理解を図る

今後の感染症対策については園と家庭（保護者）とが意見を出し合って決めていく

食育年間全体計画についての研修の際に、食育年間全体計画は、保育園内の保育士と給食担当者（栄養士・調理師）がお互いの専門性を発揮して連携・協働して作成することとなっていると思います。それは保育園内（保育室や園庭など）における食育と保育園給食の献立内容との関連付けを促進し、給食を一体的にとらえた充実した食育推進につながることは以前にも述べたところですが、とある研修会場にて、私の理想的な食育年間全体計画書を見ることが出来ました。それは、家庭の保護者の協力あってこそ充実させることができる食育計画の書類を作成するメンバーの中に、あらかじめ保護者を入れておくということです。

「園で決めることを受け取るだけの保護者」（一方向的な依頼は理解が進まないことが多い）から脱却していただき、今回のような未曾有の感染症対策については、「保育園と家庭（保護者）が一体となって対策を考える」ことによって、保護者も自分自身の話題だと認識することが可能になり、実践しやすくなることでしょう。

特に、全員の保護者に顔と名前が知れ渡っているような保護者に話し合いの場に参加していただき、その保護者を通じて多くの保護者に連絡することは確実に太いパイプになります。是非ともご検討ください。

【野口提言】

保育園職員だけの頑張りでは新型コロナウイルス感染拡大対策には不十分です。保護者の意識を高める必要があります。

(公社) 全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」(上越教育大大学院・野口孝則)

保護者との共通理解を図る

保護者との共通認識を高めるために情報提供の「量」と「質」が大切

私たち一人ひとりの行動次第で感染拡大を抑えていくことが求められ、そのような生活習慣について政府がわかりやすく示したものが「新しい生活様式」です(右図)。

- (1) 一人ひとりの基本的感染対策
- (2) 日常生活を営む上での基本的生活様式
- (3) 日常生活の各場面別の生活様式
- (4) 働き方の新しいスタイル

という4つの主題が設定され、それぞれの項目でかなり具体的に記載されています。

これらの項目のどれも私たち日本国民全員が取り組むべき「新しい生活様式」なのですが、保育園の皆様の役割としては、園児の保護者に向けて徹底してこの「新しい生活様式」を守ることを伝えていくことだと私は思っています。

「食育だより」や「健康通信」など保護者向け連絡広報の中に、少しずつ紹介していくことなども手法の1つだと思います。また、保育園登園時の子どもたちの様子を見ながら優先的に保護者に伝えるべきであり**保護者に向けた啓発活動は欠かせません。**

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身付的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m以上確保し、必要に応じて1mを確保する。
- 咳やくしゃみをする際は、マスクを着用し、肘や袖口で口元を隠す。
- 会話をする際は、可能な限り裏向きを避ける。
- 口内吐、室内にいるときや会話をするときは、マスクを着用し、咳やくしゃみをする際は、マスクを着用し、肘や袖口で口元を隠す。
- 手洗いは流水と石鹸を用いて20秒以上洗い、手拭き紙で水分を拭き取る。

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより徹底する。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 乗車や飛行はひかえめに、出張はやむを得ない場合に、
- 発症したときのために、誰とどこで会ったかをメモにする。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- 定期的に手洗い・手指消毒 成エチケットの徹底 こまめに換気
- 身付的距離の確保 「3密」の回避(密集・密着・密閉)
- 毎朝体温測定、健康チェック、発熱又は風邪の症状がある場合は必ず自宅待機

(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通気も利用
- 人または少数人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 持参したてをなるべく減らす
- オンラインなど無接触での接触は避ける
- レジに並ぶときは、前後にスペース

公共交通機関の利用

- 乗降は短時間に
- 乗降は短時間に
- 乗降は短時間に

食事

- 持ち帰りや出勤、デリバリーも
- 屋外空間で実施もよく
- 立食は避け、料理は密着に
- 料理は密着に、おしやべりは短時間に
- 立食は避け、料理は密着に

冠婚葬祭などの集まり

- 人数での会合は避けて
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったり オフィスはひろひろ
- 出勤はオンライン 出勤はオンライン 出勤はオンライン

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体で別途作成予定

(公社) 全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」(上越教育大大学院・野口孝則)

保護者に向けた情報発信

危機管理において対象者の不安を軽減するための秘訣は情報提供である

危機管理において対象者の不安を軽減するための秘訣は、情報提供に尽きます。

最新の情報や対策実施の理由（根拠）を伝えることはもちろんのこと、保護者が抱えている「悩み」や「不安」を伺っていきながら、個別カウンセリングを実施して心の癒しを提供するだけでなく、個人情報や伏せた形で食育だよりなども掲載してQ&Aの形で記述し情報提供することで、保護者からの信頼が高まり、協力を得ることにつながります。

「新型コロナ対策で忙しい」のはもちろん理解できますが、今後のことを考えますと、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた優先順位としては、情報発信の「質」と「量」の両方を高めていくようにしましょう。

例えば、世界中で感染症が広がっている状況だからこそ食育の重要性が高まっているところであり、健康と養護の観点から「心身の健康の源である食」についての知識や技術を、保護者に伝えていくべきです。

マスクや手洗いは感染症対策の基本的な大原則ですが、それらと同様に重要な感染症対策である「栄養」や「食事」について家庭（保護者）に伝えていく「新型コロナ時代の食育」が、今後、全国的に展開される一年になることでしょう。

次スライドに「今年だからこそ実施すべき食育の課題」を提示いたしますので、参考にしていただけるとありがたいです。

（公社）全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」（上越教育大大学院・野口孝則）

新型コロナ時代における食育

令和2年度の保護者向け情報提供の内容（野口案）

（1）感染症対策としての「食」の大切さ【健康】

- ・ 毎日の食事の大切さ
- ・ 健康の源としての食事・運動・睡眠
- ・ しっかり食べることと食べ過ぎないこと
- ・ 食事を楽しむことが健康につながる
- ・ 衛生的に気をつけるべきポイント

（2）防災や緊急時対応【防災】

- ・ 自宅の食事や栄養について（経済的、簡便、作り置きなど）
- ・ 家族の一員としての助け合い（感謝の心）
- ・ 日頃からの備蓄の大切さ

（3）食の流通やアクセスの問題【社会経済】

- ・ 海外依存度の高さ（供給の不安定）
- ・ 国内流通と地産地消
- ・ 購買集中による弊害

（4）食情報に関する倫理と行動【情報】

- ・ 災害時や非常時に流れる偽情報（デマ）
- ・ 「正しく怖がる」というリスク・マネジメント

【野口提言】

最新の情報や対策実施の理由（根拠）を伝えることはもちろんのこと、保護者が抱えている「悩み」や「不安」を伺っていきながら、個別カウンセリングを実施して心の癒しを提供するだけでなく、個人情報や伏せた形で食育だよりなども掲載してQ&Aの形で記述し情報提供することで、保護者からの信頼が高まり、協力を得ることにつながります。

（公社）全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」（上越教育大大学院・野口孝則）

自治体との連携こそ”密”に行う

保育園で起きていることは保育園職員が知っている → 保護者へ、地域へ、報道機関へ幅広く伝えるべき

この新型コロナウイルスについて正しい知識を得ることが基本となり、その上で、適切な対応を行っていくことが重要です。出来る限りの対策を行うことはもちろんですが、人的資源や物資の有無に依存して「やりたいけれども実施できない」ことも多いことと思います。

自治体の保育担当者との連絡・調整によって人的資源や物資不足の解消を目指すことが重要であり、そのためには、「保育園からの情報発信」が重要です。

【野口提言】

毎日のどれほど小さな変化でも記録（メモ）に残しておくこと。

最も大切な情報発信先としての保護者はもちろんのこと、行政担当者に向けて正確な情報をこまめに届けていきましょう。

（公社）全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」（上越教育大大学院・野口孝則）

今起きていることを記録（メモ）する

保育園で起きていることは保育園職員が知っている → 保護者へ、地域へ、報道機関へ幅広く伝えるべき

私からの提言「記録（メモ）を取りましょう」というのは、保護者や自治体職員に向けた正しい情報の発信の材料です。

- （1）新型コロナウイルス感染拡大の前
- （2）全国各地で感染が拡大していた頃
- （3）同じ都道府県内（さらには市区町村）における感染が拡大していた頃
- （4）緊急事態宣言時
- （5）緊急事態宣言解除後

などのように時系列に変化の記録を保存・保管していき、それぞれの期間中には、何が起こり、保育職員はどのように考え、対応し、処理を行ったのか、そしてその後の予後良好だったのか、改善が必要だったのか、など、経験途中の今だからこそ記録を残しておきたいです。

はじめの頃は、ほんの数人でも恐怖心を覚えていたことや、一時期は東京だけで200人を超える新規感染者が発生していたことなど、その時にはその時なりの常識としてそのまま受け入れていた状況ですらあらためて今になって考えてみると不思議なことや疑問に感じることも多数あります。また、そう遠くない未来に想像以上の出来事が起こるかもしれません。

（公社）全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」（上越教育大大学院・野口孝則）

新型コロナウイルス感染拡大の防止にむけて

科学の特徴を理解すること、そして、最新の情報を得ながら考えること

今回、マスメディアやSNS上の個人（小さなメディア）による情報の波の激しさを感じています。

これまで、食と健康に関する情報のあり方や、食の安全・安心とメディアのあり方についても大学院で授業を行っている私としましては、今回の新型コロナウイルスに関する多くの情報の波こそが、人間に不安な気持ちや恐怖心をもたらし、巧みに集団心理を動かしているような雰囲気がとても気になっています。

新しい未知のウイルスとの戦いに対して、数十年にわたって国内外の最先端の研究施設や大学で研究活動をしてきた人の発言や提言を信じない人がいることに驚いているといったほうがわかりやすいかもしれませんね。私もひとりの研究者として情報発信する際には、言葉を選び、数的データの根拠を示し、確率論的に考えて可能な限りの助言をしているつもりです。

生物学や医学などの人間科学において100%の結論はなく、あくまでもの可能性を確率で表現しながら、自分よりも専門的知識や経験の少ない一般の方々に、どのようにわかりやすく的確に伝えていくべきか、を考えているのです。

(公社)全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」(上越教育大大学院・野口孝則)

柔軟に対応できる体と心を育む

科学の特徴を理解すること、そして、最新の情報を得ながら考えること

サイエンスの世界は、まだまだ人間が知らないことばかりです。

だから魅力的なのですが、今回の新型コロナウイルス感染症対策の報道などを拝見していると、科学者の発信よりもその何十倍もの「素人の感想」が報道されていることに違和感を感じます。

このことについて、私からひとつのお願いですが、保育関係者の皆様におかれましては、何十年も専門的な研究を国内外で実施してきた科学者の声にもっと耳を傾けていただきたいということです。

つい数ヶ月前の年末年始の頃にはウイルスという言葉など話すこともなかった「素人の感想」は聞き流しておきましょう。

【野口提言】

日本に必要なことは「科学コミュニケーション(サイエンス・コミュニケーション)」の醸成

(公社)全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」(上越教育大大学院・野口孝則)

感染症対策は科学で考え政治が判断をする

科学者の役割と、政治家の役割と、市民の役割

科学者は、「正しく怖がる」ために必要な科学の知識を市民に提供する（安全と危険の判断）。しかし、科学は100%ではない。（確率論的思考）

政治家は、「安心して暮らす」ために必要な政治の決断を市民に提供する（安心と不安の判断）。そして、政治決断は100%である。（法・規則・基準の明確化）

市民は、科学者と政治家を信頼しながら、一人ひとりが出来る対応を行う。社会を動かしているのは、市民であり、最先端の実践の現場で悩みや苦悩を抱えることも多い。

だからこそ、私は、市民の声は大切なものと考えています。

同様に、保育園においても、主たる人物同士の共通理解のもと、役割の分担と明確化が重要だと思います。（新型コロナ対策のみならず、日頃の保育園においても）

【野口提言】

保育専門家として、保育現場のコロナ対策の実践後の、結果・評価・感想・苦悩・憤りなどを、必ずまとめて発信すること！

（公社）全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」（上越教育大大学院・野口孝則）

感染症対策とともに毎日の食事・食育の大切さ

これからもまだまだ新しい「保育における食育」の展開が可能です。無理なく継続・発展させていきながら、子どもたちの成長を促す食育（栄養教育・栄養管理）の成果を実感していきましょう。

食育実践のための理論や技法を学び合い、より効果的な食育を目指す（実践力を高める）

- ・ 食育は教育実践の1つであり、教育理論や心理技法等を理解し活用する。
- ・ 情報を全て提供することが食育ではない。情報の伝達や提示の仕方について再考すべき。
- ・ （全て伝えること → 対象者自らが感じることを、調べることを、考えることを、楽しむこと）食

食育対象者の現状把握に基づき、明確なる改善目標（介入目的）を設定する

- ・ 対象者の課題は何か、介入によって何をどのように変えたいのか、を明確にすべき。
- ・ 「やらなければならないこと」を明確にする。
- ・ それは同時に「やらなくてもよいこと」を明確にすることでもある。（必要性の検討）
- ・ 実践内容の企画では、「出来ること」と「出来ないこと」を考慮する。（実現可能性の検討）

（公社）全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」（上越教育大大学院・野口孝則）

感染症対策とともに毎日の食事・食育の大切さ

これからまだまだ新しい「保育における食育」の展開が可能です。無理なく継続・発展させていながら、子どもたちの成長を促す食育（栄養教育・栄養管理）の成果を実感していきましょう。

これまでの経験から「出来たこと（有効性）」や「良かったこと（効果）」を蓄積しまとめる

- ・「やりっぱなし食育」からの脱却の鍵は「記録」である。
- ・特に、日々の食育実践における管理栄養士・栄養士の「行動」と「思考」の記録が重要。
- ・記録があれば、判断が出来る、評価が出来る、改善が出来る、発表が出来る、論文が書ける。

食育を広め多くの対象者への定着を図るために、食育実践者こそが食育を楽しむべき

- ・食への興味・関心を高める秘訣は「おいしさ」「楽しさ」「満足感」「感謝」「喜び」「繋がり」等。
- ・食育を広め深めていくためには、食育実践者こそが率先して食育の魅力を体現するべき。



(公社) 全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」(上越教育大大学院・野口孝則)

保育における「食育」の言語化

子どもの育ちを支える食～保育所等における「食育」の言語化～

乳幼児期の食事は子どもたちの生活のすべてを支える大切な柱の一つであり、食べることで子ども自身の発達や保育の基盤です。そのため、保育所・認定こども園（以下、保育所等）で行われている毎日の保育のすべてが食育につながるものであり、食事は「生きる力の基礎を育むうえで大切なもの」、「空腹を満たすだけでなく信頼関係の基礎をつくる営み」、「生涯を通じた影響を及ぼすもの」です。

また、保育所等における食育の推進は、「保育所保育指針」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」において求められているものです。

(全国保育士会HPよりDL可能・クリック!)

食育はそうした重要な取り組みであるにもかかわらず、これまで、保育所等においてなぜ食育に取り組んでいるのかといったことや、その必要性については、根拠や理論に基づいた整理はされていませんでした。そこで、全国保育士会では、乳幼児期の食事、そして保育所等における食育の重要性について、保育所等で取り組んでいる一つ一つの活動を整理、言語化し、『子どもの育ちを支える食』を作成しました。

保育所等における食育について、保育者が自身の取り組みを他者に説明する際のツール、保護者や地域への発信する際のご活用ください。



(公社) 全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」(上越教育大大学院・野口孝則)

Web研修の内容まとめ

Web研修開催挨拶

- ・簡単な自己紹介
- ・Web研修開催の経緯

新型コロナウイルスを正しく理解する

- ・正確かつ信頼のおける情報へのアクセスを確保する
- ・自然災害発生時と同様に日々の対応を記録しておく

職員の安全を確保する

- ・何よりも職員の安全を確保すること
- ・感染拡大防止対策とともに職員のメンタルケアを

給食・食事の衛生管理と新型コロナ対策

- ・保育園給食（食事）の衛生管理
- ・保育室における食事の時間の対応

保護者との共通理解を図る

- ・日本国民全員が実践していくべき「新しい生活様式」
- ・さらに保育園発信型の情報提供を～新型コロナ時代の食育～

自治体との連携こそ”密”に行う

- ・自治体担当者との共通理解を深めるために
- ・新型コロナウイルスはほぼ全ての業種に影響を及ぼす

柔軟に対応出来る体と心を育む

- ・感染症対策は科学で考え、政治が判断をする
- ・正しく怖がることの大切さ

新型コロナ対策とともに毎日の食事・食育の大切さ

- ・今できることの検討（実現可能性）
- ・今やるべきことの検討（必然性）
- ・すべては子どもたちのために

(公社) 全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」(上越教育大大学院・野口孝則)

緊急事態における保育園の存在価値

災害時や感染拡大などの緊急事態における保育園の役割についてあらためて考えておきたい

今回の新型コロナウイルス対応においては、一人ひとりの保育職員の「頑張り」や「精神力」に大きく依存しています。

(私は、以前から、自然災害対応における保育園の役割を再考すべきと発信しているところですが・・・)

いまあらためて「感染症が拡大した場合の保育園の役割」を再検討・再構築すべきであり、「緊急事態宣言下においても保育施設を開園しなければならないのか」について各自治体の保育担当者とともに検討していくべきです。

今後さらにもう少し感染拡大が落ち着いたところで、早急に自治体担当者との打ち合わせを進めてください。

今年の秋冬には第2波が来ることも想定されています。その時までには、今後の緊急事態宣言の発令による対応(何をすべきか、何が出来るか、何をやめるべきか、など)を明確に定め、保護者にも事前通知をして、共通理解を深めておきましょう。

もちろん、今後、世界中の全ての人々が安心して社会生活を送ることが出来ることを願います。

令和2年6月23日

上越教育大学大学院学校教育研究科 教授(学長補佐)

野口孝則 (noguchi@juen.ac.jp)



(公社) 全国私立保育園連盟主催WEB研修「新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する保育園の給食・食事・食育」(上越教育大大学院・野口孝則)